

## 第1回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時	令和6年10月21日(月) 16時00分～17時00分				会 場		市役所202会議室	
委 員	船越 美穂	○	中山 健	欠	木部 里美	○	北岡 かや子	○
	鐘井 秀子	欠	高橋 茂	○	中尾 麻貴子	欠	奥村 美香	○
	木村 友美	○	後藤 未奈子	○	大和 寿美	○		
事務局	(子ども子育て部) 早川部長、(子ども支援課) 姫野係長、(子ども家庭センター) 本田係長、大森係長、(子ども育成課) 許斐課長、吉田係長、上村係長、三吉							

### 1 あいさつ

子ども子育て部長より開会のあいさつ

### 2 委員、事務局の紹介

審議会委員自己紹介

事務局職員紹介

### 3 会長、副会長の選出

会長に船越委員、副会長に奥村委員を選出

### 4 議事録について

作成方法は、会議内容の要点筆記で行う旨が確認された。

### 5 報告

事務局より「令和5年度の幼児教育事業報告」及び「令和6年度の幼児教育事業計画」について報告

- ・今年6/15の保幼小義連絡会では、市保育協会よりカフェコーナーの設置の提供があり、飲み物を飲みながら打ち解けた形で、有意義な意見交換ができた。
- ・保育の日については、昨年頂いた意見をもとに今年4月にも実施し、小学校の先生から15人の参加をいただいた。

### 6 協議「幼児教育事業の取り組みで、課題や気になる点について」

○保育の日について

- ・保育現場は忙しく、保育の日や研修などになかなか人を出せない。
- ・時間帯や体制が難しいが、工夫しながら訪問できるよう努力していきたい。
- ・小学校から訪問していただいたのは有難い。
- ・4月に園の先生に小学校の子どもの姿を見てもらえるのが1番よいが、時期的に難しい。

#### ○アプローチカリキュラムについて

- ・保幼小の研修会での内容がどのように反映されたのか、園側がその後の経過を知れるとよい。
- ・スタートカリキュラム、実際に見せてもらえるとよい。
- ・アプローチカリキュラムの作成が義務づけられてきているのでベースとなるようなものがあるとよい。
- ・主体的な遊びの捉え方が園によって違う。
- ・スタートカリキュラムを作成するのに大切なことは、子どもの姿を実際に見ることである。研修会では、参観後の協議の中で、子どもの育ちが小学校へどうつながっているのかを共有できることが有難い。
- ・子どもが安心して小学校に通えるようにするために、入学後は、絵本・歌・手遊びをできるだけ取り入れる。子どもが主体性を持ち、行動することが大事。
- ・県が主催している教育課程に関する研修会の内容は、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの強化に繋がると感じたので、市からも園の参加を勧めてほしい。
- ・幼稚園教育要領に合わせて保育をすることを前提に、その上にそれぞれの園の独自性をのせていくことが大切である。
- ・入学前に配布する「楽しい小学校生活にむけて」のリーフレットを、入学前のチェック項目と捉えている保護者がいる。

#### (事務局)

- ・市内園においてアプローチカリキュラムを文章化して作っている園はあまりない。
- ・市として、共通するベースとなる部分が見えるような形で示すことができるとよいと考えている。共通するベースの上に各園の特色があらわれる。
- ・保育参観で子どもの姿を見ながら、スタートカリキュラムに反映できればよい。
- ・小学校の先生の困り感に対し、園での取り組みを伝えるなど、情報交換を重ねながら保幼小で共有できるとよい。

#### ○入学後の子どもの姿について

- ・入学後給食に不安を抱え、泣いていたが、小学校の先生の声かけにより落ち着いていった。
- ・幼児期に親しんだ手遊びや歌を取り入れることで安心感が生まれ、不安や心配する気持ちを和げる。
- ・小学校は、園と比べると、階段も長いし、教室も広く、入学後、新しい施設に不安を抱えている子どもいる。
- ・行き渋りの子ども時間はかかるが、徐々に笑顔が増えた。個々に応じた対応が必要である。
- ・子どもたちが自分の気持ちを上手に出す方法や、自分の気持ちをコントロール方法などを小学校の先生が考えていくことが必要であると感じている。
- ・子どもたちが靴を揃える、食器を静かに片付けるなど、日常生活を丁寧に過ごすことも大切である。

#### ○配慮が必要な子どもに対する支援体制について

- ・入学後 1 年間は支援級に入れず通級で 1 年間過ごすことになった。就学前に、関係機関の方に集まっていたいただき、手厚いサポートがとても有難かった。

- ・入学後の子どもたちの困り感を減らすために、園で気になる様子は保護者に伝えてほしい。
- ・就学相談を受けた方の中には、1年生は様子を見たいという保護者の方も多く、実際に支援級に入るのが間に合わなかったという方もいる。
- ・4月・5月の時点で保護者から小学校の先生に、子どもの気になる様子を伝えてもらうよう促している。小学校の先生と保護者との関係づくりが大切である。
- ・就学前に療育している子のことを、療育施設から小学校の担任に伝えている。また、就学相談が間に合わなかったら、放課後等デイサービスでフォローしていく。
- ・本人から支援級に行きたいという子には、自分の気持ちは伝えてよいと伝えている。
- ・年長児が120～130人ぐらいいるので、小学校ときちんと繋がっているかが難しい。療育施設・学校にも引継ぎを行っている。
- ・入学後、先生の移動もあるので、情報が共有できるよう引継ぎは大切である。
- ・宗像市は、のぞみ園や発達支援センターなど充実しているので、まず相談してみるよう保護者に促している。
- ・入園後、発達が気になり相談を受けて療育につながった。
- ・発達支援センターにつながるまでに時間がかかる。

#### ○保・幼・認による小学校見学支援事業について

- ・宗像市のバスを利用して小学校訪問に行く支援事業は、とても有難い。
- ・いつも遊んでいる友達と一緒に学校に見学に行けるととても安心する。

#### ○その他

- ・保育士等の離職率が高い。
- ・研修会の実施の仕方など創意工夫が必要。研修は義務ではなく権利であると受け止めることのできる保育者の労働環境が保障されなければならない。
- ・保育士等が宗像で働きやすい環境づくりが必要。

## 7 あいさつ

子ども育成課長より閉会のあいさつ